



# 滋賀短期大学 学報

2017. 12. 1

No. 82

## CONTENTS

[学長メッセージ/P2]

[特集1 全国私立短期大学体育大会/P3]

ソフトテニス部、バドミントン部、バレーボール部、女子バスケットボール部

[特集2/P4~5]

体育大会、リーダーズトレーニングⅡ、純美禮祭を終えて

[学外実習報告/P6~7]

[平成29年度 美しい日本語コンクール/P8]

[滋賀短は、少し新しくなっています!/P9]

[平成29年度公開講座/P10~11]

[Shiga・Tan・Information/P12~13]

保健室だより、同窓会だより ほか

[学内情報/P14~16]

平成28年度決算・財務状況報告、短期大学行事等開催状況、  
2017ふるさと竜王夏まつり、人事異動 ほか



滋賀短期大学

〒520-0803 大津市竜が丘24-4 滋賀短期大学 広報・図書委員会

電話(077)524-3605

ホームページアドレス <http://www.sumire.ac.jp/tandai/>





# 東京五輪1964年の 名場面に思いを馳せて

滋賀短期大学学長 佐藤 尚武



2020年の東京五輪に向けては、エンブレムの再公募、国立競技場や各競技会場の新設などに問題を抱える準備状況のなか、中学生を含めた若い競技者が国際舞台で躍動するニュースが駆け巡っています。本年の9月9日には、陸上競技100mで桐生祥秀選手が9秒台に突入という、歴史的快挙がありました。東京五輪の100m決勝では日本人選手が残るのではないかと、期待を膨らませているところでした。このような話題がクローズアップされると、半世紀も前のある光景が鮮明に蘇ってきます。私事となりますが、1964年の東京五輪の一コマを語ってみようと思います。最初に、その光景の一端を高等学校の教科書(国語I、大修館書店、1991年)から、羽佐間正雄による「実力に魅せられて」という随想を紹介いたします。

「照明灯に月の光がブレンドされて、男の顔の彫りを見事にクローズアップしていた。闇に包まれて眠りにしている神宮の森の中で、この一角だけはドラマチックに息づいている。時計の針はもう10時を回っていた。熱闘は9時間余りも止まず、果てる時を知らぬかのように思えた。昭和39(1964)年10月17日。舞台は国立競技場、東京オリンピック陸上競技棒高跳び。男はフレッド・ハンセン。アメリカの医学生である。日焼けしてきりりとしまった青年の横顔が私の座る放送席のモニターにアップで映った。マイクの前で、私は「おやっ」と思った。余りにも静かな表情なのだ。重大な局面に立った緊張の様子は微塵もなく、ことさらたかぶるふうでもなく悲壮感もない。これがこれから唯一残されたチャンスに挑む人間の表情であろうか。信じられないほどの落ち着いた姿に内心驚いたのだ。」以下、略します。

これは、羽佐間氏がテレビ中継を担当し、残された最後の跳躍に挑む選手の表情を捉えている冒頭の部分です。随想では、この競技における勝者を通して、「実力とは何か」という課題に向けて展開されています。この随想を知ったのは、50歳に近かったように思います。これを手にしたときには、鳥肌が立ちました。なぜかといえば、「月下の死闘」ともいわれた、この劇的な場に私がいたからです。

1964年の東京五輪では、陸上競技の学生審判員として棒高跳を担当しました。当時の競技場はアンツーカーといって、赤いレンガを砕いて固めたもので、スパイクで削れる難点があり、その整備も重要な役割でした。私自身が棒高跳の選手だったので、助走路の整備が任せられ、選手に最も近い位置にすることになりました。午後1時に予選が始まりましたが、東京大会からグラスファイバー製のポールが許可されたために、予選通過記録を多くの選手がクリアする事態となり、延々と続くこととなります。バーの高さが5mになったときは夜の9時を過ぎており、

この高さをクリアしたのはハンセン(米国)とラインハルト(西独)の2選手でした。5m05はハンセン選手が大胆にもパスし、ラインハルト選手がクリアして、バーは5m10に上がりました。この高さを2選手とも2回の跳躍を失敗し、最後のトライアルとなります。

ハンセン選手は長時間になるのを想定し、予選から無駄な動きをせず自分の世界に入っていたように思われます。跳躍前のアップでは鋭い動きを時折入れる程度で、自らを鼓舞するような大きな動作をすることもなく、声を出すでもなく、表情は終始平静さそのものでした。試技前には特別なルーティンもなく、グリップの位置を慎重に何回か確認すると、すっと助走に入っていく選手でした。この一跳びに失敗すれば優勝を逃し、米国は第1回のアテネ大会(1896年)以来無敗の棒高跳14連勝が途切れるという局面でした。ハンセン選手はこの絶体絶命のなかでも表情を変えずに、特別な動きをすることもなく、これまでと同じで実にシンプルな構えからトライアルに入り、見事クリアするのですが、ラインハルト選手は力みのある跳躍となって失敗しました。五輪新記録をもって勝敗が決したのは夜の10時7分であり、9時間を超えていたのです。

ところで、この跳躍を目の前にしていつかを学んでいます。見通しを立てて、ひとつのトライアルに集中する大切さ、追い込まれても動じない、周りを見透かされない強さです。何年かして、「泰然自若」という構えではないかと、この熟語を好むようになりました。二つ目に、関わる人への感謝です。彼は審判員に軽く黙礼した後、私には片手をあげて「Thank you so much.」と喋ってピットを離れました。注意深く整備していたことがわかっていたように思います。一流の選手は、このようなセンスを持ち合わせていることを教えられました。三つ目は翌日のサブトラックでの出会いにあり、医学生であること、最後の競技であること、戻って医学に専念すること、小児医療に関心があること、生理学がベースにあること、そして最後にあの跳躍には神の加護があったと思うと話してくれました。この出会いを通して、数年後に生理学に軸足をおくという選択をすることになります。

助走路の整備という巡り合わせによって、その後の生き方に関わる指針を得るとともに、専門的な歩みの方向づけの一助にもなっていることを、後年になって気づくこととなります。自らがとる行為や行動が、思わぬコミュニケーションにつながる大切さを身をもって学んでいることとなります。若いときには、ボランティア活動を含めて多くの活動する機会がありますが、そこでの関わり方が後年の歩みに少なからず影響をもたらすように思われてなりません。学生時代には、机を離れた学びの場と積極的に関わりをもたれるように期待しています。

## 【特集1】 Feature 1

# 全国私立短期大学体育大会

平成29年8月7日から10日に、東京都他各地で第52回「全国私立短期大学体育大会」が開催され、本学各クラブが出場しました。バスケットボール部は部員数も少ないながらベスト8と大健闘、バレーボール部準優勝、ソフトテニス部(女子)は、「団体優勝」3連覇、バドミントン部(女子)も4連覇という快挙を成し遂げました。個人戦でもソフトテニス部(女子)は優勝、準優勝、第三位、バドミントン部(女子)は、ダブルス、シングルス共に優勝と優秀な成績を修められ、各選手とも健闘しました。大会結果は、次の通りです。

### ◎ソフトテニス部(女子)

- 団体 優勝(3連覇)
- 個人 ダブルス優勝 宗行紗里・徳田玲奈ペア
- 準優勝 村木美帆・渡邊千華ペア
- 第三位 大西陽菜・狩野あずさペア
- 第三位 森汐音・大橋華ペア

### ◎バドミントン部(女子)

- 団体 優勝(4連覇)
- 個人 シングルス優勝 脇田渉夢
- ダブルス優勝 西村みらい・首藤優花ペア
- ダブルス3回戦 杉江佑菜・東 滯ペア

### ◎バレーボール部(女子)

- 準優勝

### ◎バスケットボール部(女子)

- ベスト8

## ソフトテニス部 主将 ビジネスコミュニケーション学科 2年生 村木 美帆

私たちソフトテニス部は、団体優勝、個人ベスト4独占を目標に、部員一人一人が前向きな姿勢で日頃から練習に取り組み、大会でも良い雰囲気でも戦うことができました。

団体戦は2連覇しているということもありプレッシャーがある中試合に挑みましたが、どんな相手に対しても自信を持って自分たちのプレーをすることができた結果、目標を達成することができました。

大会には、原学生部長や保護者の方々もお忙しい中応援に来ていただきました。周りのたくさんの方々から支えられていることに感謝し、これからも日々の練習を頑張っていきます。今後とも応援よろしくお願いします。



## バドミントン部 主将 生活学科 2年生 脇田 渉夢

今年の全短は、バド部にとっても私たちにとても特別なものになりました。歴代の先輩方が作り上げてきた団体3連覇という記録をさらに伸ばし、団体4連覇を達成しました。そして何と、個人戦ダブルス、シングルスともに優勝し、創部以来初の3冠を手にする完全優勝を達成しました。4連覇を目指すという大きなプレッシャーのなか、チーム一丸となり、「今年も優勝する!」という強い気持ちをもって戦い抜くことができ、それが個人戦への結果にもつながりました。来年も5連覇と3冠を目指して、日々精進していきます。



## バレーボール部 主将 ビジネスコミュニケーション学科 2年生 浅野 奈央

昨年は3位となり、3連覇を逃した悔しさから今年こそは優勝するという強い気持ちをもって大会に臨みました。結果は、決勝戦まで勝ち進みましたが、昨年と同じ武蔵丘短期大学に敗れ準優勝となりました。悔しい結果となりましたが、今大会の反省を活かして秋季リーグ戦で2部昇格を目指していきたいと思っています。

大会には理事長や保護者の方々がお忙しい中、応援に来ていただきました。多くの方々の支えに感謝し、これからも日々努力していきたいと思っています。



## 女子バスケットボール部 顧問 山中 博史

バスケットボールは8月8日から埼玉県の入間市民体育館で開催されました。昨年度3月に退職された山本剛史先生の後を引き継ぎ、今年度は山中博史と外部コーチで卒業生の蠅川内花歩の指導の下、2回生4名、1回生1名の5名で戦うことになりました。

2日間で3試合の予選リーグでは昨年度ベスト4の北海道武蔵丘短大、一昨年優勝の奈良文化女子短大との対戦でした。結果予選リーグを2勝1敗で終えました。残念ながら決勝トーナメントには進出できませんでしたが、空調の効いていない体育館において5人で、途中退場や怪我をすることなく戦い抜いた選手は頑張ってくれたと思います。

大会には理事長や保護者の方々がお忙しい中応援に激励に足を運んでいただき、書面をお借りしてお礼申し上げます。



## 青春の汗が流れる体育大会

学生自治会執行部 牧野 和輝



6月14日(水)に学生自治会執行部主催の新入生歓迎のための体育大会が、ウカルちゃんアリーナ(県立体育館)にて行われました。自治会執行部メンバーでプログラム作成、パンフレット作製、全ゼミの色別グループ分け、ハチマキや小道具などを準備し、前日・当日は運動クラブのメンバーの協力も得て体育館の準備、司会、進行、などなど、大変ながらも、比較的スムーズにできたと思います。例年実施していないボーナス玉入れやドリブルリレーなどの新しい競技では、出場者が困惑するようなこともあり反省点もありましたが、リレーやデカパン競争、教員対学生の綱引きなど、会場全体が、プレイにも応援にもフィーバーできたように感じています。



新入生を歓迎して、親睦を深めるという体育大会の目的がありますが、全学の学生、教職員が体当たりで競技に熱狂し、色別対抗ということで、ゼミや学科を超えて息のあったプレーも見られました。

今年度、学生自治会執行部にはたくさんの一回生メンバーが加わってくれました。二回生は指示を出すのに戸惑うくらいですが、スタッフが多いというメリットを生かしてスムーズに進行ができていたと思います。大学で、全員参加の体育大会は大変珍しい行事だとは思いますが、思いっきり走ったり、チームワークの必要なゲームをしたり、ということで友人や先生との距離がぐっとちぢまったのではないのでしょうか。自治会執行部のメンバーも一回生にとっては初めての行事でしたが、和気あいあいと学年を超えて親睦を深められ、自分たちも、楽しく参加できました。

最後になりましたが、体育館準備でライン引きなどをお願いしました体育関係の先生方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。優勝チームにトロフィーと賞品が授与されますが、勝ち負け関係なく、いい汗を流して、滋賀短大生として連帯感ができたように感じています。

## リーダーズトレーニングⅠ・Ⅱを今年も実施しました

学生部長 原 知子

リーダーズトレーニングは「大学行事やクラブなどの活動において、リーダーとしての自覚と責任を持ち、活躍できる学生を育成し、学生が積極的に大学生活を活性化できるように」という目的で、ゼミおよびクラブ代表者を対象に毎年2回実施しています。

2017年度第1回目は、平成29年6月24日(土)9時~14時30分、335教室にて、行われました。アイスブレイク、コミュニケーションゲームのあと、1) みんなの力で成功させよう純美禮祭、2) 学生として守るべきマナーとは、3) 楽しいキャンパスライフを目指して、4) 滋賀短大の学風づくり、のテーマでグループに分かれてディスカッションを行いました。純美禮祭にむけての提案、禁煙や通学方法に関する意見、キャンパスをよくするための意見や要望、オアシスハイ運動の周知をはじめ、ディスカッション内容は全員で共有しました。第2回目は、9月20日(水)13時~14時30分。リーダーとは何かについて江見先生のお話、オブザーバー教員による1回目のディスカッションの内容確認があり、再度各ゼミやクラブに持ち帰ってもらいます。自治会執行部から純美禮祭について、エントリー状況や注意事項がなされ、最後に今年度の方針が発表されました。このような機会を通じてリーダーシップ、メンバーシップを発揮できるような人材が養成されることを願っています。



## 破顔大笑~こんな純美禮祭どない?~

純美禮祭を終えて 学生自治会 会長 南井 大河



今年で48回目になる純美禮祭を11月4日(土)、5日(日)の二日間にわたって開催しました。いろいろな人から「純美禮祭、楽しかった」「最高やった」と、僕にとってとてもうれしい声を多くかけてもらいました。今年は学生自治会の皆で「笑顔」を目標に、純美禮祭の企画・運営をおこないました。そして、その目標が達成できたのではないかと思っています。

前日は、みんなで力を合わせて声を掛けながら夜遅くまで準備をしました。特に装飾は、迫力のある装飾をすることができました。今年の装飾は、より純美禮祭を楽しんでもらえるように工夫をしました。玄関には、立体文字を作り楠木の根元に置き、入り口には風船アーチを立てました。また玄関からの廊下は、照明ライトをブルーにして、海をイメージできる魚などを飾り付けました。

純美禮祭当日は、朝早くから実行委員や模擬店を出す学生が一生懸命準備している姿が見られました。そして、ステージで開会宣言が行われ純美禮祭がスタートしました!!グラウンドは、模擬店販売をする学生や、それをおいしそうに食べてくださるお客さんの笑顔であふれていました。今年のステージイベントでは、外部から来てくださったバンドや弾き語りの方々に盛り上げていただきました。また、本学の学生でもある木下洗希くんにもジャグリングパフォーマンスをして頂きました。彼にとっては、強風の中難しい演技だったようですが、会場は大盛り上がりでした。ステージのメインイベントは、火災報知器さんとパーマ大佐さん2組の芸人さんによるスペシャルライブでした。楽器を使った歌ネタやコント、トークショーなど会場は大きな笑いに包まれました。他にもすみコレ(仮装ファッションショー)では、ユニークな仮装や特技が披露され、とても楽しいコーナーとなりました。ピンゴ大会では、本学生だけではなく、一般の方もたくさん参加していただき大変盛り上がりしました。

僕たち自治会二回生は純美禮祭が最後の大きなイベントで、純美禮祭が終了した時には、達成感でいっぱいでした。ここまで僕を支え笑顔くれたひとりひとりのメンバーに感謝しています。一回生は僕たちの背中を見ながらいろいろのことを学び、来年はさらに良い純美禮祭が開催されることを期待しています。

広告掲載に快く応じてくださった企業の皆様、地域の方々、教職員の皆様、学生たち、そして中心となって純美禮祭を盛り上げてくれた実行委員のメンバー、多くの皆様のご協力のおかげで、盛況のうちに純美禮祭の幕を降ろすことができました。誠にありがとうございました。

破顔大笑、今年の純美禮祭で皆さんの笑顔が楽しい思い出の一つになったことと思います。また来年も純美禮祭に是非お越しください。これからもご支援とご協力よろしく願います。

誠にありがとうございました。



# 学外実習報告

## ■ 給食経営管理学外実習で学んだこと

生活学科食健康コース（2回生） 八幡 未空

私は8月21日から25日の5日間、におの浜保育園に学外実習へ行きました。実習では調理室に入らせていただき栄養士さん、調理師さんと同じように現場での仕事を体験させていただきました。

100食以上の給食を限られた時間で作らなければいけないだけでなく、普通食、離乳食、アレルギー食、さらに普通食の中でも年齢によって大きさに違いがあったり、たくさんの種類を作られていて年齢による対応は保育園ならではの感じました。特にアレルギー食は、一歩間違えると命の危険にもつながるのでご飯を提供することの重大さを感じました。各園児ごとに担任の先生と連携して注意を払うだけでなく、当日に給食室での随時確認、アレルギーの子専用の食器など、ほかにも園児の安全を守るための工夫がたくさんありました。

大量調理は一つ一つの作業を早く、効率よく行うことはもちろんですが、皆さんがたくさん声をかけながら調理を進められる姿を見て仲間とコミュニケーションを取ることの大切さを感じました。後期にも給食実習の授業があるので人数が多い分みんなが声を掛け合ってよりよい実習になればと思いました。

学校ではできない貴重な経験をたくさんさせていただき、この5日間は実りのある時間になっただけでなく、保育園の栄養士として働きたい気持ちを再確認できる時間でした。



## ■ 医療秘書実習を終えて

ビジネスコミュニケーション学科（2回生） 寺田 彩乃

私は平成29年8月29日より2日間、大津赤十字病院で医療秘書実習を行いました。授業では、医療秘書演習室で演習も行うこともありますが多くの授業は座学なので、実際の医療現場を体験できた貴重な実習となりました。

実習では、実際に現場で働く姿を傍で見ることができ、その場その場で臨機応変に対応することを学ぶことができました。初診窓口では、紹介状を持たない受診では別に料金がかかることの説明や、労災・自賠責への対応など、知識面においてもたくさん学ぶことができました。また、どの場面においても患者さまとのコミュニケーションをしっかりと取ることが大切だと感じました。眼科病棟では、病室前にそれぞれ異なる絵が飾ってあり、「目が見えにくい患者さまなどおられるので分かりやすく飾っている」と教えていただき、細やかな心遣いを感じました。

実習中は様々な部署を見学させていただきました。もっと積極的に多くのことを質問すればよかったと反省しています。その時は説明していただいたことだけで充分だと感じていましたが、後からせっかく現場の方とお話をする機会があったのもったいないことをしたと思うことがありました。これからはもっと視野を広げて質問していきたいと思えます。

病院は多くの患者さまがおられるので、個人情報取り扱いなど気を付けなければならないことが多くあります。そのため、慎重になり緊張の連続でしたが、教えてくださる職員の方々が優しく接してくださったので良い緊張感となりました。また、初めての医療現場に出て、いろんなものを目にし、また話を聞き、本当に多くのことが学べました。これから、この実習で得たことを活かしていきたいと思えます。



## ■ 教育実習から学んだこと

幼児教育保育学科（2回生） 伊藤 夏美

6月・9月に臨んだ教育実習では、3歳、4歳、5歳児のクラスに入らせていただきました。どのクラスに入ってもまず最初に、一人ひとりの子どもたちに「名前を呼びながら挨拶をすること」を心掛けました。すると子どもたちのキョトンとする笑顔が見られ、少しずつではありましたが関係が持ていけるようになりました。そして、嬉しさも感じ始めました。また、一緒に遊ぶ時にも子どもたちの思いに気づけるようにしながら関わりを持ちましたが、同じ年齢でも一人ひとりの発達過程の違いから関わり方に難しさを感じました。特に子ども同士のトラブル場面での対応はどのように言葉をかけたらいいのか戸惑いましたが、先生方からのアドバイスをいただきながら学びました。

実習中では、部分実習や設定保育もさせていただきましたが、指導案を何度も書き直し考え、失敗したらどうしよう、子どもたちは興味を持ってくれるだろうか不安でした。しかしその不安をよそに子どもたちは設定保育を楽しんでくれました。指導案通りには進めませんでしたが、その後の反省会で先生方から「指導案通りしなくていいですよ。子どもたちの言動から活動や言葉かけは変えていいですよ」と言っていただき嬉しかったです。また不安でいっぱいな状況でありましたが、自信を持って全体を見通せるように心がけ実習を終える事が出来ました。



## ■ 保育実習を終えて

幼児教育保育学科（2回生） 水野 ほの華

私は、一回生、二回生の保育実習は、同じ園での実習に臨みました。それは半年経った子どもたちの成長ぶりを感じたいという思いがあったからです。実習では保育者の一人ひとりの成長に配慮した保育が展開されている重要性を学ぶことができました。

二回生の実習では、四歳児クラスに入りました。そのクラスでは複数担任で対応されていて常に子どもたちの情報交換をしっかりとされ、連携を取ることによって安全に毎日の保育が進められているのだと学ぶ事ができました。また、子どもたち自らが主体的に活動できるように保育者の方が先走らないで、見守ることで子どもたちは友達と、また自らも考え思いを出し合い遊びを進めていく場面も観察させていただきました。そのような子どもたちの姿を把握し、最終日には設定保育をさせていただきました。夏の時期でもあり、シャボン玉遊びと色水遊びのコーナーを設定しました。教材研究をし、指導案を作成し保育に臨みましたが、色水遊びの各色の色水が足りず、子どもたちから「もっと色水が欲しい」など遊びが途切れてしまう結果になりました。このような経験から準備物は多めに用意したり、子どもたちの思いに気づける、またその思いに応えられるようにしていかなければいけないことなど学びました。

今後は、保育現場で保育者として実習で学んだことを活かせるようにしたいです。また、子どもの気持ちに寄り添い、共に成長を喜びあえる保育者を目指したいです。



# 平成29年度 美しい日本語コンクール

## テーマ「近江文化を通して美しい日本語を学ぶ」

本学学生を対象とした“美しい日本語コンクール”が今年も開催されました。  
今年度は自由応募のみの参加受け付けで、25編のエッセイがエントリーされました。

審査員 清水まゆみ（図書館長）  
手良村昭子（広報・図書副委員長）  
伊澤 亮介（ビジネスコミュニケーション学科 特任助教）



### ◎入賞者

- 最優秀賞 森田桂也乃（ビジネスコミュニケーション学科1回生）「近江の昔話について」
- 優秀賞 水野ほの華（幼児教育保育学科2回生）「湖上に浮かぶ浮御堂」  
田井中美優（幼児教育保育学科2回生）「青い目の近江商人」
- 努力賞 藤井えりな（幼児教育保育学科2回生）「私の住んでいる町」  
長谷川水紀（幼児教育保育学科2回生）「近江の食べ物について」  
畑野 朱里（幼児教育保育学科2回生）「方言の違い」  
石本 桃子（ビジネスコミュニケーション学科1回生）「滋賀県の食とのつながり」  
松居 舞華（幼児教育保育学科2回生）「美しい風景を作り出す八幡堀」  
森 優華（幼児教育保育学科1回生）「私の近江の食・文化についての思い」  
武士田咲季（幼児教育保育学科2回生）「びわ湖」  
ベロス パメラ（幼児教育保育学科1回生）「赤こんにゃくの不思議」



純美禮祭で表彰しました

### 最優秀賞受賞作品 近江の昔話について

ビジネスコミュニケーション学科1回生  
森田 桂也乃

私は近江の昔話について調べました。昔話は、後々の教訓になるお話が多いので読んでみておもしろかったです。今回読んだ昔話は鮎女房、雪女郎、田の神と風の神です。どの話も登場人物への戒めとなる展開がありました。

一つ目の鮎女房では、ケガをしたフナを男が助け、その後にフナが美人の女性となってやって来る。その後、見ではいけない湯あみを見た時に女性は湖にかえり追いかけた男はフナになったというお話でした。死を覚悟したフナは人間に助けられた時、忘れられない恩をかんじたのだと思います。男も魚を助けるという優しさがあり、人間としてすばらしいと思いました。しかし、長く一緒にいることや、慣れ、相手への礼儀がなくなってしまうことで結局、女性から禁じられていたことをしてしまう事になったと思います。私自身とても仲の良い友達や家族にこそ心にも無い事を言ってしまう事があります。この昔話はどれほど親しくなるとしても相手の意見は尊重することが大切だということを示していると思います。

雪女郎では、人間達が私利私欲のために山の木を切り尽くした結果雪崩にあうお話です。いつの時代も、自分達の事しか考えていないと痛い目を見る事が分かりやすく書かれていて理解しやすいお話でした。普段の生活の中でも、自分勝手な行動ばかりしていると困った時に誰も手を差し伸べてくれないということがあります。

田の神と風の神は、人の忠告を聞かずに幼い嫁をもらった田の神が風の神との約束を破り決別するお話で、読んでみると自分がどれだけ良いと思っていても一度は人の忠告を聞き入れる事が大切だと思いました。

近江の昔話は、湖や山を舞台にしたものが多くどれも努力をした者には良い事が怠けたものには悪いことが起こるというものなので私もよく読んで教訓にしたいです。

## まもなく創立50周年 滋賀短は、少し新しくなっています！

**222教室が大変身**  
演習やグループワークやプレゼンが自由自在に。最新のICT機器も完備!

**3号館女子トイレ**

**トイレの改修**  
和式から洋式トイレへ改修。パウダールームも設置しています。

**食堂の大きな柱を取りました。**  
屋上の煙突につながっていた大きな柱を取り除き、ずいぶん見晴しが良くなりました。

**正面玄関を全面サッシ・自動ドアに!**  
耐震対策の補助金を活用し改修、すごく明るくなりました。食堂窓も全面サッシにリニューアルしました。

同窓生の皆さん、  
また遊びにきてね♡

## 平成29年度公開講座

### 淡海文化講座

広報・図書委員 助教 松井 典子

今年度の淡海文化講座は2つの講座（淡海文化講座Ⅰ・淡海文化講座Ⅱ）に分かれ開催いたしました。

淡海文化講座Ⅰは、9月30日に本学すみれホールに於いて、本学3学科の教員のそれぞれの専門分野に関するテーマを取り上げた講演を実施いたしました。生活学科からは、清水まゆみ教授による「食品の機能性～食生活と健康～」について、幼児教育保育学科からは、荻田純久教授による「よい子、よい人という生き方～過剰適応の観点から～」について、ビジネスコミュニケーション学科からは、伊澤亮介特任助教による「日越交流小史～近江商人と安南貿易～」についての講演でした。

淡海文化講座Ⅱは、11月25日に同じくすみれホールに於いて、市立長浜病院がん対策推進室管理監兼放射線治療センター長の伏木雅人先生を講師にお招きし、「納得できる人生を！～がん患者と共に歩んで～」をテーマにご講演いただきました。

今後も多彩な講座内容を地域の皆様に提供できるよう企画、運営を行って参りたいと考えております。



淡海文化講座Ⅰ（清水教授）



淡海文化講座Ⅰ（荻田教授）



淡海文化講座Ⅰ（伊澤特任助教）

### こども講座

広報・図書委員 教授 清水 まゆみ

こども講座は小学生を対象に、夏休みに興味あふれる学習を体験してもらえよう開講しています。「こども書道教室」は小学校1・2年生対象の硬筆の練習、小学校3～6年生対象の毛筆の練習の2講座を行いました。硬筆と毛筆の違いはあるものの、どちらも鉛筆や筆の持ち方や正しい姿勢という基本から指導していただきました。「こども陶芸教室」では素焼きのカップと小皿に、釉薬絵の具で色付けしました。自分で考えた図案を描いたオリジナル食器、大切に使うことでしょ。 「こどもフラワーアレンジ教室」では、台風のため、材料のお花が届かないというアクシデントがありましたが、いろいろと手を尽くしていただき、開講することができました。お花の切り方やデザインのポイントを一緒に考えてもらい、元気な作品が出来上がりました。「こどもラボラトリー」は今年新たに開講した講座で、本格的な器具を使用して実験を行いました。今回は《食べ物の色を調べよう》をテーマとし、緑黄色野菜の色素を分析しました。こどもたちは試験管、毛細管、薄層プレート、展開槽など、見るのも初めての器具を上手に使いこなしていました。実験結果として、トマトやほうれんそうにはカロテノイド系の色素が含まれていることがわかりました。これらの色素は体内で酸化を防いだり、ビタミンAに変わるものがあり、食育も兼ねた講座になりました。今後もこども講座は、楽しみながら学べるよう開講したいと考えています。



こどもラボラトリー

### すみれキャリア講座

広報・図書委員 教授 手良村 昭子

今年度のすみれキャリア講座は、「銅版画教室」「楽しく作るパンの時間（その14～17）」「大人のピアノ教室」「大人のイタリア語」「スウェーデンハンドセラピー講座」の8講座を開講しました。

毎年好評の本学金丸特任教授による「楽しく作るパンの時間」は（その14～ドイツの焼き菓子）（その15～食事用のヴィエノワズリー）（その16～クロワッサン）（その17～ウイーンのお菓子和パン）と昨年度の続きでヨーロッパの伝統的なパンとお菓子の講座が開かれました。今年度はパンだけでなく焼き菓子のメニューも加わったことが受講者の方々には大変好評でした。

今年4回目となった、本学の前川秀治名誉教授による「銅版画教室」では、毎年受講して下さる方も増え、基本的なドライポイントやエッチングの他にアクアチントの技法を使って深い色の世界を探索される方もおられました。最終日の作品合評会は、前川先生のご指導のもと、お互いの作品を見ながら制作への思いを語らう楽しいひと時となりました。

昨年度から開講している「スウェーデンハンドセラピー」は今年も大変好評で、たくさんの方に参加していただきました。地域の方々の健康への意識の高さを感じられます。

今年度の新たな試みとして、「大人のピアノ教室」「大人のイタリア語」といった大人の学びシリーズが始まりました。どちらも志の高い受講者の方が集まり、学びの多い講座となりました。

本学のすみれキャリア講座は、これからも地域の皆様の生涯学習の場として活用していただけますように、皆様のご意見を参考にしながら楽しい企画を考えていきたいと思っております。



楽しく作るパンの時間

### 滋賀医科大学との共催公開講座

広報・図書委員 特任教授 堀池 喜八郎

平成29年度の滋賀短期大学と滋賀医科大学との共催公開講座を、8月5日（土）に本学で開催しました。

今回のテーマは「腸内細菌と健康」です。清水まゆみ教授の司会のもと、佐藤尚武学長の挨拶に始まり、2つの講演が行われました。引きつづき希望者による調理実習を実施しました。この講座は毎回講演（午前）と調理実習（午後）の2部構成です。

講演は、安藤朗（あんどうあきら）教授（滋賀医大・消化器内科）による「腸内細菌と健康の関わり」と、井上真衣（いのうえまい）管理栄養士（滋賀医大病院・栄養治療部）による「腸内環境を食事から考える」です。

両氏は、腸内細菌と健康についての医学・生物学、栄養学・食生活の実際について、それぞれわかりやすく解説されました。私たちは進化の過程で現在の腸内細菌叢を獲得し、その細菌と共生して、「それら細菌には腸内に住んでいただいている」。その細菌叢は個人に特有である。善玉菌とよばれる乳酸桿菌やビフィズス菌についても解説され、また発酵食品や食物繊維の有効な摂り方やその際の注意点を、一日の具体的な献立例で示されました。時間が足りないほど、多くの方が活発に質問をされました。

調理実習のテーマは「腸内から健康を作る食事～食物繊維と発酵食品～」です。生活学科の高橋ひとみ講師や医大病院の大井彰子主任栄養士の指導のもと、生活学科の教員と学生が補助をし、参加者の皆さんは楽しく真剣に実習をされました。





# Shiga・Tan・Information



## 保健室だより

学生支援課(保健室) 安井 綾子

### Aさんと1冊の本

久しぶりに保健室に来た2回生のAさん。右手には1冊の本が…。しばらくすると「最近なんかうまくいかなのよな～人間関係…」と話し出しました。持っていた本を開き、あるページを見せてくれました。そこには『疲れたときは 前に進むより 立ち止まる勇気』とありました。Aさんは「今の私、この状態や～!」と話してくれました。どうやらAさん、心が疲れて保健室に休憩に来たようです。Aさんは「この本、こんなことも書いてるんやで～」とまた、別のページを見せてくれました。そこには『人間関係がもっとよくなる 「あかさたなはまやらわの法則」(超訳アドラー)』とありました。【あ】～【わ】まで44個のメッセージが記載されています。例えば…【あ】相手がいるから自分がある 【お】同じ世界にいても捉え方は違う 【さ】探すのは良いところだけ 【ち】違いを受け止める など。

Aさんは「この本を読むと、いろんな気持ちが少し落ち着いてくるんや」と言いながら、ページをめくっていました。「来年、就職したら、このページをよく読むことになるのかな?」と言いながら見せてくれたページは『新入社員時代から心がけたい「あかさたなはまやらわの法則」』とありました。こちらも【あ】～【わ】まで44個のメッセージが記載されています。例えば…【い】忙しくても食事と睡眠をとる 【え】遠慮しすぎない 【か】勝手な判断は禁物 【つ】机は常にきれいにする など。

Aさんが持っていたこの本!!ぜひ、皆さんにも読んで欲しいなと思い保健室用に購入しました。興味のある人は、ぜひ、保健室に読みに来てください。(貸し出しはしていないので、保健室で読んでね。)



## 純美禮祭 子ども企画「みんなで遊ぼう!滋賀短ひろば」

乳幼児総合研究所 手良村 昭子 前川 頼子 浜崎 由紀

今年度、純美禮祭の新企画として乳幼児総合研究所主催で子ども企画「みんなで遊ぼう!滋賀短ひろば」を開催しました。

午前中は人形劇をすみれホールにて上演、午後からはすみれプレイルームにて木育広場をひらき、木工クラフトなどを楽しんで頂きました。竜が丘保育園の園児さんをはじめ、地域の親子連れの方、本学学生等、子どもから大人まで合わせて約90名の方にご参加いただきました。

オープニングは本学の児童文化クラブの学生によるわらべうた「おおなみこなみ」で始まりました。学生たちが歌いながら動作も交えて紹介すると、子どもたちも楽しく参加してくれました。続いて、大津市坂本に在住の「人形劇・トロッコ」による人形劇を上演しました。演目は、犬の「わんべい」がトランクのカバンから登場する腹話術の「トランクシアター」。そして、昔話でおなじみのテーブル人形劇「3びきのこぶた」でした。トロッコさんのユニークな演出に会場は笑いの渦でいっぱいになりました。鑑賞後は、本学学生と一緒にミニ舞台で人形を演じる子どもたちの姿も見られ、地域の方にも人形劇に親しんでいただけるよい機会となりました。また、附属図書館との連携で図書館蔵書の「3びきのこぶた」の絵本や紙芝居、滋賀県出身の絵本作家の絵本等も絵本コーナーに配置しました。親子で読み聞かせされる場面もあり、とても微笑ましい光景でした。

午後からの木育広場では、滋賀県産のヒノキの木片や桜のチップ、どんぐりや松ぼっくりといった様々な自然素材を使った木工クラフトを楽しんでいただきました。会場では、子どもアートクラブの学生たちが製作の指導を行い、子どもたちをサポートしました。様々な素材を組み合わせてきた子どもたちの作品は、とてもユニークで創造性豊かな素敵な作品ばかりでした。

今回午前の部、午後の部と二つの子どものための企画を開催しましたが、地域の子と子どもたちが交流できる素晴らしい時間となりました。

乳幼児総合研究所では、自然や文化を通じた地域交流の活動が今後も継続できればと思っています。



## 同窓会だより

同窓会会計 酒井 弘子

同窓生の皆さまにおかれましては、益々お元気で活躍のことと存じます。

平成29年度同窓会の総会及び懇談会を9月3日(日)に滋賀短期大学内において開催しました。お忙しい中、ご出席いただきました会員の皆さま、教職員の方々、ありがとうございました。総会では平成28年度決算報告をはじめ、すべての議事が無事承認されましたので、ご報告申し上げます。

総会後は、生活学科製菓担当特任教授の金丸政義先生のご指導により、今年は、ドイツ菓子「ハルツァーザネクーヘン」に挑戦しました。短時間で簡単に上手にできるポイントを教えていただき、素敵なお菓子を完成させ



ことができました。お手伝いいただいた山川紀美香さんとベーカーリー塾の学生さんにはお世話になり、心から感謝いたします。ありがとうございました。その後、学内の学生ホールにて懇談会を開催しました。会食や自己紹介・近況報告、ピンゴゲームを行い、懐かしい友達や先生との話に花を咲かせました。また、いろいろな年代の会員がコミュニケーションを図ることができ、和やかに楽しく過ごすことが出来ました。

来年は、今回出席して下さった卒業生の皆さんが、身近な同窓生を誘い合ってより多くの会員の方々にご参加いただけることを役員一同心よりお待ちしております。



## 後援会だより

滋賀短期大学 後援会 会長 関西 美晴

後援会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、後援会活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

また、11月4日(土)、5日(日)の両日に「第48回純美禮祭」が盛大に開催されましたことを心からお祝い申し上げます。自治会の皆さんには計画から企画、更には実行委員の皆さんも加わり、準備、運営に至るまでご尽力頂いた事に対し敬意を表したいと存じます。

さて、私達後援会役員は、2日目の5日(日)に模擬店の一角をお借りして学園祭にお越しのお客様や学生に「炊込みご飯とお茶」の提供をさせて頂きました。今年は、滋賀県米消費拡大推進連絡協議会様から近江米(みずかがみ、コシヒカリ、秋の詩)それぞれ5キログラムを提供して頂き、一味違った炊込みご飯を提供できたのではないかと考えています。炊込みご飯は、収穫の秋に季節の食材を使って作ることが多いと言われ、冷めても美味しいご飯のため、季節柄学園祭の時に毎年提供させて頂いています。今年については、天候不順がつづいていた関係で、学園祭当日はやや冷え込むとの情報もあり、炊込みご飯については、保温維持のため発泡スチロールの容器を用意し暖かさをキープして、購入いただくお客様に私達後援会からの愛情を受取って頂いたのではないかと考えています。



# 学校法人純美禮学園の平成28年度決算・財務状況報告について

学校法人純美禮学園の平成28年度決算は、公認会計士の監査、学園監事の監査、理事会・評議員会の承認を経て、確定いたしましたので報告いたします。

事業活動収支計算書は、当該会計年度の各事業活動における収支の内容及び均衡の状態を明らかにし、貸借対照表は、本学園の年度末の資産状況を明らかにするものであります。

## 事業活動収支計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで (単位千円)

	事業活動収入の部			
	科目	決算		
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,139,624		
	手数料	36,939		
	寄附金	62,316		
	経常費等補助金	444,541		
	付随事業収入	6,113		
	雑収入	108,721		
	教育活動収入計	1,798,254		
	事業活動支出の部			
	科目		決算	
	人件費	1,118,470		
内：退職給与引当	3,314			
教育研究経費	449,915			
内：減価償却	115,051			
管理経費	83,049			
内：減価償却	4,203			
徴収不能額等	1,330			
教育活動支出計	1,652,764			
教育活動収支差額	145,490			
教育活動外収入の部	科目		決算	
	受取利息・配当金	29,782		
	その他の教育活動外収入	0		
	教育活動外収入計	29,782		
	事業活動支出の部			
	科目		決算	
	借入金等利息	1,753		
	その他の教育活動外支出	0		
	教育活動外支出計	1,753		
	教育活動外収支差額	28,029		
経常収支差額	173,519			
特別収入の部	科目		決算	
	資産売却差額	0		
	その他の特別収入	26,196		
	特別収入計	26,196		
	特別支出の部	科目		決算
		資産処分差額	16,364	
		その他の特別支出	16,300	
		特別支出計	32,664	
	特別収支差額	△ 6,468		
	基本金組入前当年度収支差額	167,051		
基本金組入額合計	△ 132,706			
当年度収支差額	34,345			
前年度繰越収支差額	△ 1,108,562			
基本金取崩額	24,000			
翌年度繰越収支差額	△ 1,050,217			
(参考)				
事業活動収入計	1,854,232			
事業活動支出計	1,687,181			

## 貸借対照表

平成29年3月31日 (単位千円)

資産の部		本年度末
固定資産		( 4,661,883 )
有形固定資産		2,927,096
土地	372,667	
建物	1,945,906	
構築物	43,375	
教育研究用機器備品	256,052	
管理用機器備品	24,251	
図書	279,606	
車両	5,239	
特定資産	1,734,041	
第3号基本金引当特定資産	365,961	
退職給与引当特定資産	115,073	
減価償却引当特定資産	1,218,259	
住宅貸付引当特定資産	34,748	
その他の固定資産	746	
電話加入権	646	
保証金	100	
流動資産		( 745,860 )
現金預金	596,272	
未収入金	137,426	
貯蔵品	247	
前払金	11,915	
資産の部合計	5,407,743	
負債の部		( 335,185 )
長期借入金	63,270	
退職給与引当金	271,915	
流動負債		( 336,516 )
短期借入金	35,530	
未払金	19,918	
前受金	259,520	
預り金	21,548	
負債の部合計	671,701	
純資産の部		( 5,786,258 )
第1号基本金	5,305,297	
第3号基本金	365,961	
第4号基本金	115,000	
繰越収支差額	( △ 1,050,216 )	
翌年度繰越収支差額	△ 1,050,216	
純資産の部合計	4,736,042	
負債及び純資産の部合計		5,407,743

# 短期大学行事等開催状況(平成29年6月～平成29年11月)

(総務課に届出済(届出分)の一部を掲載しています。:短大事務局)

## 6月

- 1日(木) 教授会、企画調整会議、教学マネジメント部会、自己点検・評価委員会、学内研究会 (FD)
- 3日(土) 教育懇談会、後援会総会、図書館連携講座 (浜大津)
- 6日(火) 給食経営計画実習食事提供
- 8日(木) 教務委員会、学生支援委員会、学生募集委員会、広報・図書委員会、すみれがーでん
- 11日(日) 夏のオープンキャンパス
- 13日(火) 水曜日授業、高校教員対象入学試験説明会 (草津会場)
- 14日(水) 体育大会 (県立体育館)
- 15日(木) 高校教員対象入学試験説明会 (本学)、教学マネジメント部会、企画委員会
- 16日(金) 高校教員対象入学試験説明会 (彦根会場)
- 20日(火) 高校教員対象入学試験説明会 (草津会場)
- 21日(水) 京滋私立短期大学協会事務担当者懇談会就職部会
- 22日(木) 自己点検・評価統括委員会、研究ブランディング作業部会、科会、すみれがーでん
- 24日(土) リーダース・トレーニングI
- 25日(日) 夏のオープンキャンパス
- 27日(火) 企画調整会議、学内研究会 (SD関連) 報告会、給食経営計画実習食事提供
- 29日(木) 地域移動講座 (長浜)

## 7月

- 5日(水) 研究ブランディング作業部会
- 6日(木) 教授会、教学マネジメント部会、学内研究会、I回生教務オリエンテーション、すみれがーでん
- 8日(土) 幼II回生総合表現発表、草津新田会館中・高生見学、図書館連携講座 (浜大津)
- 10日(月) 補講日、研究ブランディング作業部会
- 11日(火) 給食経営計画実習食事提供
- 12日(水) 学園教学監査
- 13日(木) 教務委員会、学生支援委員会、学生募集委員会、広報・図書委員会
- 17日(月) (祝日)月曜日授業
- 18日(火) 給食経営計画実習食事提供
- 19日(水) 中間監査
- 20日(木) 教学マネジメント部会、企画委員会、すみれがーでん
- 22日(土) 夏のオープンキャンパス
- 23日(日) 夏のオープンキャンパス
- 25日(火) 企画調整会議、地域移動講座 (高島)
- 26日(水) 人権委員会
- 27日(木) 科会
- 28日(金) 常任理事会
- 31日(月) 前期定期試験 (8月4日(金)まで)

## 8月

- 1日(火) 日本医師会認定医療秘書養成に関する運営委員会
- 3日(木) 教授会、全学的研究プロジェクト会議、教学マネジメント部会
- 5日(土) 滋賀医科大学との共催公開講座、図書館連携講座 (和邇)
- 6日(日) AO入試事前面談 (I期)
- 7日(月) 夏季休業 (9月22日(金)まで)、AO入試事前面談 (I期)、入学試験委員会、全国私立短期大学体育大会 (8月10日(木)まで)、こども講座 (書道 (硬筆・毛筆))
- 8日(火) 入学試験委員会、こども講座 (陶芸、フラワーアレンジ)、すみれキャリア講座 (銅版画)
- 17日(木) 学内研究会 (SD)、教学マネジメント部会、企画委員会、人事委員会
- 18日(金) 夏のオープンキャンパス
- 19日(土) 夏のオープンキャンパス
- 21日(月) こども講座 (書道 (硬筆、毛筆))、すみれキャリア講座 (パン (その14))
- 22日(火) こども講座 (陶芸)、すみれキャリア講座 (銅版画)
- 23日(水) 職員研修、こども講座 (ラポラトリー)
- 24日(木) 科会、すみれキャリア講座 (パン (その15))
- 25日(金) AO入試事前面談 (II期)

- 26日(土) すみれキャリア講座 (銅版画)
- 29日(火) 入学試験委員会、附属高校実践講座、すみれキャリア講座 (銅版画、大人のピアノ)
- 30日(水) すみれキャリア講座 (パン (その16))
- 31日(木) 学内研究会 (FD)、教務委員会

## 9月

- 1日(金) すみれキャリア講座 (パン (その17))、大津シェイクアウト訓練
- 2日(土) 図書館連携講座 (和邇)、すみれキャリア講座 (大人のイタリア語)
- 3日(日) 同窓会総会、ホームカミングデー (生活、ビジコミ)
- 5日(火) すみれキャリア講座 (銅版画、大人のピアノ)
- 7日(木) 教授会、教学マネジメント部会、学内研究会 (FD)、すみれがーでん
- 8日(金) 附属高校実践講座
- 12日(火) すみれキャリア講座 (大人のピアノ)
- 13日(水) 施設実習連絡協議会
- 14日(木) 臨時教授会、教務委員会、学生支援委員会、学生募集委員会、広報・図書委員会
- 15日(金) 附属高校実践講座
- 20日(水) 中間監査、前期成績交付、I・II回生教務オリエンテーション、リーダース・トレーニングII、すみれキャリア講座 (スウェーデンハンドセラピー)
- 21日(木) 前期再試験、教学マネジメント部会、企画委員会、IR部会、教職員学長表彰選考委員会、地域移動講座 (大津)、すみれがーでん
- 22日(金) 前期再試験、常任理事会
- 23日(土) AO入試事前面談 (III期)
- 25日(月) 後期授業開始
- 26日(火) 入学試験委員会
- 28日(木) I回生対象人権講演会、科会
- 30日(土) 淡海文化講座I

## 10月

- 2日(月) 辞令交付式
- 4日(水) 学園事務連絡会議
- 5日(木) 教授会、教学マネジメント部会
- 7日(土) 図書館連携講座 (堅田)
- 10日(火) 食健康コース大津サービスエリアとのメニューコンテスト
- 12日(木) 自己点検・評価委員会、教務委員会、学生支援委員会、学生募集委員会、広報・図書委員会、すみれがーでん
- 19日(木) 防災訓練、教学マネジメント部会、企画委員会、実習委員会、施設整備委員会
- 21日(土) AO、指定校推薦、特別推薦、SP推薦 (I期) 入試
- 22日(日) 公募制推薦前期 (A日程) 入試
- 24日(火) 臨時教授会、SD委員会、科会、地域移動講座 (東近江)
- 26日(木) すみれがーでん
- 27日(金) 常任理事会、100周年史委員会
- 30日(月) 地域移動講座 (甲賀)
- 31日(火) 学内研究会 (SD関連) 報告会

## 11月

- 2日(木) 教授会、教学マネジメント部会
- 3日(金) (祝日)月曜日午前授業
- 4日(土) 純美禮祭
- 5日(日) 純美禮祭、ホームカミングデー (幼教)
- 6日(月) 月曜日午後授業
- 9日(木) 教務委員会、学生支援委員会、学生募集委員会、広報・図書委員会、すみれがーでん
- 11日(土) 図書館連携講座 (堅田)
- 12日(日) 公募制推薦前期 (B日程) 入試
- 16日(木) 臨時教授会、教学マネジメント部会、企画委員会
- 20日(月) 100周年史委員会
- 22日(水) 中間監査
- 23日(木) (祝日)木曜日授業
- 24日(金) 常任理事会
- 25日(土) 淡海文化講座II
- 30日(木) 科会

## KDKファッショングランプリ「織研新聞社賞」を受賞して



生活学科 ライフデザインコース 1回生 陌間 彩

『ファッションデザイン実習』の授業で、毎年「KDKファッショングランプリコンテスト」に参加されていると知り、私も挑戦してみようと思いました。今年の創作テーマは、「私のかのん」でした。テーマに沿ったデザインを考えていくことは、とても楽しかったのですが、いざそのデザインを製作していくとなると、思った以上に難しく、表現したい所が上手くいかず悩むときもありました。先生方のアドバイスや友人の励ましもあり、1つの作品として仕上げることができました。「織研新聞社賞」を受賞できたのは、周りの方々のおかげでもあると思います。この経験を通して、1から服を作る楽しさと大変さを身をもって知ることができました。今後もこの経験を忘れずに頑張ろうと思います。

## 国際交流フェスタに参加して



生活学科 特任助手 服部 聖羅

10月28日(土)大津のザルツブルグ ドイツレストランにて開催された国際交流フェスタに参加した。このイベントでは、地域の人々と外国人の国際交流を図る場として企画されたもので、インドやネパール、ドイツなどの様々な国の方が母国の料理を出し、母国で伝わる個性あふれるダンスや出し物を披露した。

ベーカリー塾では、旬の秋の食材「いも、かぼちゃ」を使った焼き菓子、パンを5種類販売した。

クッキーにはハロウィン仕様の抜き型を使って可愛く仕上げ、かぼちゃクリームを練りこんだプリオッシュは、切り込みを入れ棒状のクッキーをのせて、可愛いかぼちゃの形にしたことで多くの人の目に留まり、瞬く間に人気商品となった。

また今年は、テーマが「ハロウィン」ということで、仮装大会も行われ、参加者はみな、自分の特技や手作りした衣装をアピールした。ベーカリー塾からは、4人の衣装で元気にポーズを決めてベーカリー塾をアピールしてくれた。

今回のイベントでは、地域の方との連携のほか、普段はあまり関わりのなかった様々な国の方と、菓子を通してお話することができ、とても新鮮な気持ちで参加できた。各国の料理やダンスなど様々な風習や伝統を知ることができたことはとても勉強になった。

## 2017 ふるさと竜王夏祭り



ビジネスコミュニケーション学科 1回生 栄園 愛弓

ビジネスコミュニケーション学科の学生が、8月4日(土)に竜王町妹背の里で行われた「2017 ふるさと竜王夏まつり」に「道の駅竜王かがみの里」および「道の駅アグリパーク竜王」との連携企画の一環として参加しました。

製菓マイスターコースの学生が、竜王産名物を使った「竜王産トマトのアーモンドマフィン」「竜王産黒豆きなこのガレット」「竜王産黒豆のスコーン」の3種類を作り、私たちビジネスコミュニケーション学科の学生が販売しました。この販売に先立って、大学の空き時間に参加学生が集まり、お菓子のネーミング、ポスターやお菓子に貼るラベルのデザイン、宣伝や販売の方法などを考えました。

また、昨年の学園祭で好評だった、「コンピュータ占い」もお菓子の販売と抱き合わせで行うことにしました。

当日は、非常に暑く、最初のうちは、他店の飲み物や、かき氷などは、飛ぶように売れていましたが、本学のお菓子の販売は少々苦戦がみえました。しかし、チラシをもって宣伝して歩いたり、大きな声で呼び込みをしたり、さまざまな販売方法を工夫したこともあり、徐々に売り上げは伸びていきました。また、食べたお客さんが非常においしくとまわりに宣伝してくれた効果もあって、後半には順調に売り上げを伸ばし、最後には売り切ることができました。

売り切った時の達成感、非常に大きなものがありました。

企画中や当日の運営でいろいろとたいへんだったことがありましたが、この経験を通じて、実社会で役立つような、多くの知識を身に付けることができました。

今後もこのような活動に積極的に参加していきたいと思っています。



## 人事異動

### 採用

(平成29年10月1日付)

生活学科 特任助手 服部 聖羅 (嘱託職員)

(平成29年10月10日付)

嘱託職員 (保健室) 佐野 淳

## 寄付報告

平成29年6月1日から平成29年10月18日までの間に滋賀短期大学教育研究充実基金に16件のご寄付を賜りました。ここにご寄付を賜りました方々のご芳名を掲載させていただき、感謝の意を表します。

大橋年幸 様・進藤さよ子 様・鹿野好弘 様・北野志帆 様・杉本隆弘 様・秋田学 様  
池田等 様・大毛一英 様・廣瀬由紀夫 様・岡田政人 様・泉千賀子 様・宮澤武志 様  
辻友一 様・三好幸二 様・杉本重和 様・太田俊広 様 (順不同)